

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	① 基礎学力の定着と大学進学を視野に入れた授業を実践する。 ② 主体的、自主的に学習に取り組む態度の醸成、伸長をめざした授業改善を図る。	① 電子黒板と新規導入の学習教材等を効果的に活用することで、より視覚的で「主体的・対話的・深い学び」を意識した授業改善に努める。 ② 学習コンテンツの利用率を高めながら、自律的学習習慣の確立を推進する。	① 電子黒板と新規導入の学習教材の実践事例の報告会や研修会を定期的に行うことで、職員全体のスキルアップを図る。 ② 研修会の実施、課題の配信、面接・小論文対策動画の配信を行うことで、生徒の進路実現の一助となるよう工夫改善する。	① 面談における意見聴取や要望、授業評価アンケートの結果により評価する。 ② 生徒の学習コンテンツの利用率が向上し、学習習慣が定着したか。進路実績に効果が表れたか。					
2 生徒指導・支援	① SCやSSWと連携した能動的・組織的な生徒支援体制及び教育相談体制を確立するとともに、教員の意識改革を図り多様性を認識し認め合う雰囲気醸成する。 ② 部活動の更なる活性化を図り、挨拶や素直な心を基盤とした人間関係形成力や自己表現力を育成する。	① 自身が抱える悩みや課題をすぐに相談でき、ヘルプの出しやすい環境整備や体制の構築を推進する。 生徒と向き合う時間の創出を図る ② 人間関係形成力や豊かな心を育むため、部活動の活性化を推進する。 ③ 自主性と社会性を育むため、学校行事の改善や活性化を図る。	① サポートドックの効果的な活用方法を検討し、SCやSSWとの連携を強化することで教育相談の更なる充実を図る。 ② 部活動をとりにくく環境を整備し、部活動の加入率(70%以上)を維持する。 ③ 学校行事の企画・運営が、生徒主体の積極的な取り組みとなるよう支援する。	① サポートドックの有効な活用ができたか。悩みや課題を抱える生徒をできるだけ早く支援できるように日々の観察や指導を充実できたか。 ② 部活動の魅力や実績を発信し、主体的に取り組める環境を整えることで加入率を維持できたか。 ③ 行事後のアンケート等を検証し、生徒の満足度や充実感が向上したか。					
3 進路指導・支援	① 生徒一人ひとりが自己理解を深め、将来を具体的に考える姿勢を育成する。	① 自己理解を深化させ、自己の将来や進路目標に向けて、多様な探究活動等に主体的に取り	① 生徒が主体的に「総合的な探究の時間」を活用するための情報を精選し、最新の	① 職員間の情報共有を密にし、生徒に最新で有益な情報を提供することができたか。					

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(月日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		② 主体的に進路目標を設定し、達成に向けた取組みの実践へと繋がる探究活動の充実を図る。	② 生徒一人ひとりの多様な進路実現や社会参画を支援するため、実践的で有益な情報が提供できる探究活動となるよう工夫改善に努める。	② 進路目標の設定やその実現に向け、分野別進路ガイダンス等の企画や面接指導を充実させ、早期の支援体制の確立を図る。	② 進路実現に向けて、生徒が主体的に自己理解を深め、自己肯定感を高めるための組織的な支援を行うことができたか。					
4	地域等との協働	① 地域社会との交流や連携・協働を通して、「社会性豊かな生徒の育成」と「地域とともにある学校づくり」を推進する。 ② 高大連携や学校運営協議会との連携を推進する。	① 地域社会との交流や連携・協働を通して、生徒の社会性を養うとともに、地域の一員として、つながり・絆を大切に思う気持ちを醸成する。 ② 高大連携や学校運営協議会の活用を充実を図る。	① 地域との連携事業やボランティア活動の情報を積極的に発信し、生徒の積極的な参加を促進する。 ② HP等を活用し、連携の活動状況を積極的に情報発信する。	① 地域連携事業が地域からどのように評価されたか。生徒の参加率が向上し社会性が身についたか。 ② 学校の貢献活動の様子や魅力を、地域や中学生に発信することができたか。					
5	学校管理 学校運営	① 生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。 ② 職員が学校運営上の課題を理解・共有するとともに、リスクマネジメントの意識を徹底することにより、安全・安心な学校づくりを推進する。	① 風通しの良い職場環境を推進し、ICTの積極的な活用により業務の効率化を進め、働き方改革の意識を高める。 ② 全ての職員が学校運営上の課題を共有し、研修等を活用することで学校目標の実現を図る。危機管理意識を高め、不祥事故防止を徹底する。	① 今年度実施されるオフィス改善を機会として、働きやすい職場環境や業務の効率化を推進する。 ② 生徒に向き合う時間を創出し、「働きがい」の意識が高まる職場とする。あらゆる業務と事故防止の徹底に対して、組織力を高め対応する。	① オフィス改善を機会として、働きやすい職場環境や業務の効率化を推進できたか。風通しの良い職場環境となったか。 ② 職員がストレスを軽減させ、やりがいや意欲を持って業務に取り組むことができたか。不祥事故防止を徹底することができたか。					